

与路島の人びとの交流の歴史(与路校にある遺物から)

本校の資料室にある昔の遺物を見てみたら、与路島には古い時代から他の地域や外国からの物が入ってきていることがわかりました。与路の人びとは昔から活発に交流していたようです。代表的な遺物をいくつか紹介します。

① 提砥(さげと)

鎌倉・室町時代(約600~800年前)に使われていた携帯用の砥石です。長方形の板のような形で、一方に穴が空いています。役人たちが仕事で旅行する際に腰帯からヒモでつり下げて、小刀を研ぐのに使っていたようです。紙が現代のようにたくさんなかった昔は木片や竹片に小刀で字を刻んで記録することが多かったようです。折れてしまい一部しか残っていませんが、20cmぐらいのものと考えられます。与路島の人が使っていたのか、島外の人が使っていたのかは不明です。



本来はこんな形をしています。



② 白磁の皿(はくじのさら)

中国(南宋)からの輸入品です。当時の日本では生産できない高級食器です。日本に持ち込まれた当初は身分の高い人達が使っていたのでしょう。きれいな草花文様が刻まれています。黒潮に乗ってやってきた船に積まれて、南西諸島から九州西岸にかけてひろくもたらされています。特に博多には大量に輸入されています。源頼朝が鎌倉幕府をひらいた頃(1192年)のもので、



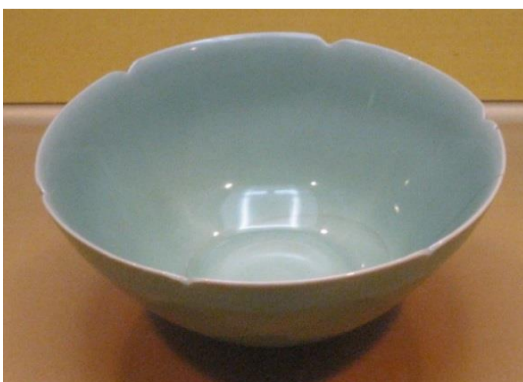
このあたりで焼かれたものです。



本来はこんな形をしています。

③ 青磁の碗(せいじのわん)

中国(南宋)の龍泉(りゅうせん)という地域一帯の窯で焼かれたもので、白磁と同様に当時の日本では生産できない高級食器です。草花文様が刻まれているものもあります。これも源頼朝が鎌倉幕府をひらいた頃(1192年)のもので、白磁に比べて青みがかっているため青磁と呼ばれます。ちなみに上野の国立博物館には平清盛の息子の重盛や足利義政が所有していた青磁の碗(馬蝗絆という銘があります)があります。



馬蝗絆(ばこうは)



龍泉はここです。



④ カムィ焼の壺(かむいやきのつぼ)

カムィ焼とは与路島のすぐ南隣にある徳之島の南部(現在の伊仙町)で11~14世紀にかけてつくられていた黒っぽい色の陶器で、甕(かめ)や壺が多いようです。鹿児島本土から石垣島までの南西諸島の広い地域で使われていました。朝鮮半島の影響を受けた焼き物と考えられています。与路の海岸では今でもカムィ焼の破片を見ることができます。



本来はこんな形をしています。

⑤ 薩摩・苗代川焼の壺(さつま・なえしろがわやきのつぼ)

薩摩焼は約400年前に豊臣秀吉の朝鮮出兵の時に、これに参加した島津氏が、朝鮮の陶工を鹿児島に連れ帰り、焼かせたものが起源となっています。薩摩焼はいくつかの系統に分類され、現在の日置市美山地区で焼かれたものを苗代川焼といいます。本校にあるこの苗代川焼の壺は明治以降の新しい時代のものです。石灰質のものが胴体にこびりついていますが、これは島に船で運ばれる途中で、何らかの理由で海に落ち、島の人々がそれを拾い上げて使ったということが考えられます。



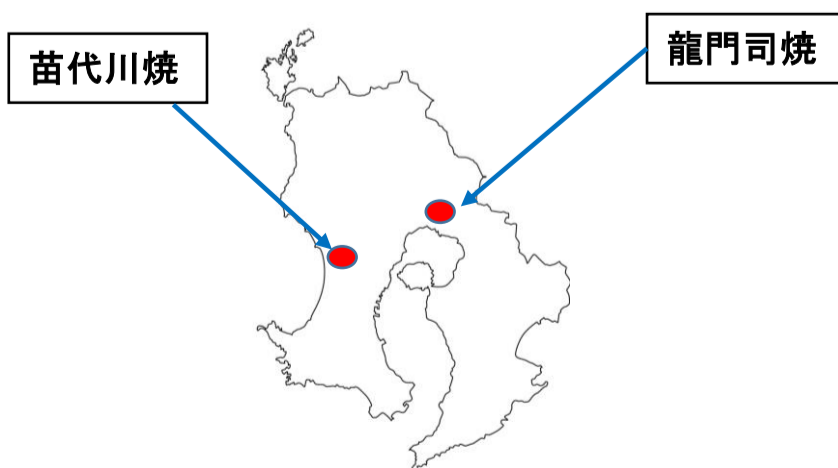
⑥ 薩摩・龍門司焼の壺(さつま・りゅうもんじやきのつぼ)

現在の始良市加治木町小山田地区で焼かれた薩摩焼を龍門司焼といいます。やはり約400年の歴史があります。この黒い釉薬のかかった壺は初期のもので17世紀前半期のものと見られます。また、同じ窯の中で焼かれた茶碗が熔着していますが、壺が原型を留めていたのでそのまま商品として与路島に搬入されたものでしょう。非常に珍しいものです。



⑦ 薩摩・龍門司焼の小瓶(さつま・りゅうもんじやきのこびん)

この小瓶は明治以降の新しい時代のものです。いろんな用途が考えられますが、鬢(びん)付け油等を保管する容器ではないかと考えられます。現代だったらさしずめ玄関先に飾ってある「一輪ざし」というところでしょうか。



⑧ 日本海軍 水平見張用15倍12糎双眼望遠鏡(にほんかいぐんすいへいみはりよう15ばい12センチそうが んぼうえんきょう)

瀬戸内町は戦時中、南方戦線に向かう艦船の中継地 または戦略的要衝として町内各地に軍事施設が建設され、現存するものも多いです。与路島にも海軍の砲台、銃座その他の施設があり、建設時は無報酬で島民(小学校2年生以上の児童も)は駆り出されたようです。この望遠鏡は本来艦艇に搭載されていますが、この施設でも使用され、終戦後に持ち出されて現在まで伝わったものではないでしょうか。重さ10kg近くあり、接眼レンズは欠損していますが、対物レンズは2個ともついています。戦後、同様のものが遠洋漁船にも使われています。



古いもので鎌倉・平安時代、新しいもので昭和のこれらの遺物は、現在の与路島の生活・文化の成り立ちのもとになっているものだなと感じました。もしかしたらもっと古い物が与路島の地下にねむっているかもしれません。道ばたや畑に落ちているもので「これは!？」と思うものがあつたら、ぜひ学校に持ってきてください。みんなで与路島の歴史をひもといていきたいなど考えています。